

臭素

分子量： 159.808		CAS RN： 7726-95-6
濃度基準値：0.2 ppm（短時間濃度基準値）	物性等 比重：3.102 沸点：59.47°C 融点：-7.2°C 蒸気圧：23.3 kPa（20°C） 形状：液体	
別名：		
以下の測定法に使用する物品は、現在販売の無いものもあるが、同等の性質のものを使用して差し支えない		
サンプリング例	分析例	
<p>サンプラー：PTFE+銀メンブレンフィルター 捕集流量：0.5 L/min サンプリング時間：15 min 保存性：60 日まで 25°Cで 92%</p> <p>破過：240min 破過なし</p>	<p>分析方法：イオンクロマトグラフー導電率分析法 脱着：3 mL チオ硫酸ナトリウム水溶液 6mM 機器： カラム等：ポリスチレン/ジビニルベンゼン基材アニオン交換ラテックスガードカラム・分析カラム、メタルフリープレカラム、アニオンマイクロメンブレンサプレッサー カラム温度： 注入量：50 µL 溶離液：0.25 mM NaHCO₃/4 mM Na₂CO₃/0.78 mM p-cyanophenol, 2 mL/min 検量線：5～150 µg (1 L/min, 15 min 捕集)：0.05～1.5 ppm</p>	
精度		
<p>添加回収率 98.8%</p> <p>検出下限 1.6 µg/sample (1 L/min, 15 min 捕集)：0.016 ppm</p>		
適用：個人ばく露濃度測定 十五分時間加重平均		
測定上の注意：濃度基準値が短時間値で設定されたため、検量線が高濃度側で準備されている。低濃度側の測定について検討が必要。		
安全上の注意：臭素は、蒸気による急性毒性、皮膚腐食性・刺激性、眼に対する重篤な損傷・刺激性が極めて高いため、化学防護手袋や全面形面体の防毒マスクの使用が必要である。吸入による有害性が高いので、ドラフトで作業する。		
根拠文献： リスク評価事業報告書はない		
参考文献： 1)NIOSH NMAM 6011 5 th Ed		

作成日 2024/01/31